



## 「かけ足記録会」を行いました。

12月5日(火)2~4限目を使い、きょうだい学年別に「かけ足記録会」を行いました。「5分間でどれだけの距離を走れるのか」、子どもたちは練習で積み重ねてきた最高距離を上回ろうと、一所懸命に走りました。保護者の皆様には、寒い中ご参観いただき、子どもたちにとっては、大変励みになったことと思います。スタートで交錯したり、途中でくつが脱げてしまったりした子もいましたが、気持ちを持ち直し、最後まであきらめずに自分のペースでしっかりと走り切っていました。どんなに距離が離されてもいい加減な気持ちにならず、最後まで全力で5分間を走り切れたのが何より素晴らしかったです。**結果はともあれ、「全力でやる」「一所懸命やる」姿は、人にとって尊いものだと思います。**

3限目には、隣の水沢保育園の年長児さんが、1年生の走っている様子を見に来てくれました。「がんばれー、がんばれー」と声を切らさず、声援を送っていました。1年生はとてもうれしく、年長児さんの前を走り抜ける時は、スピードを少し速めて走っているようにも感じました。「10, 9, 8……」というスタートのカウントダウンも一緒に声を出して合わせていました。とても微笑ましい光景でした。

時間の都合で、6年生が走る時間帯には帰ってしまったので、6年生はいいところを見てもらえず、ちょっと残念な気持ちだったかもしれません。



## 「水沢のみらいを考える会」「きらら推進委員会(CS)」が開催されました。

12月5日(火)夜、「水沢のみらいを考える会」が行われました。令和7年度から本校が小規模特認校制度を導入するにあたり、「どのように学校の特色をアピールするのがいいのか」等について討議されました。「まずは認知度を上げること、特認校の浸透を図ることが大切」「PRの仕方を工夫することが必要」といった意見が出されました。

委員の皆様からは、地域の状況について「不便だけど自然にいやされる」「地域の人のあたたかさを感じる」「信号なしで東京に行ける(鈴鹿インターまで信号がない)」「乗り合いバスに乗って校外学習ができる」等、実感されている意見が出されました。また、「子どもたち発信で何か取り組んでいけないか」「都会(町)に住んでいたらできないことが体験できる学校の魅力を伝えてはどうか」「他地域から来た子どもたちを受け入れることに壁を作らない雰囲気が必要」「体験入学の中で、実際に水沢地区の良さを感じてもらいたい」といった意見も出されました。

四日市市教育委員会内では、今年度中に制度利用者に向けた募集チラシや実施要綱等が作成されていく予定です。

「水沢のみらいを考える会」の後、引き続き「きらら推進委員会(CS)」が行われました。学校での子どもたちの様子について意見が交わされ、「午前中から眠そうにしている子どもたちがいる」という話題が出されました。情報伝達手段が急速に発達し、夜遅くまでタブレットやスマートホンをいじってYouTubeの動画を見たり、ゲームに興じたりしている子どもたちもいるようです。



2学期も残り1ヶ月となり、「早寝、早起き、朝ごはん」を合言葉に、規則正しい日常生活を送ってほしいと思います。

## 「いのちの大切さ」について考えました。(4年生)

12月6日(水)5限目に、「いのちって何だろう」という課題で授業を行いました。『いのちをいただく』という紙芝居を使い、「動物のいのちを私たちはいただき、生かされている」ということを学びました。食べ物が満ちあふれる時代に、食べ物のありがたみを伝えることは難しいことですが、『食べ物のありがたみを伝えるのは「いのち」で、食べるということは生きることなのだ』と、この物語は私たちに教えてくれているようです。

授業後の感想では、「私たちは動物たちのいのちをいただいて、いっぱいおいしい物ももらっている。これからはもっと感謝の気持ちを持って食べるようにしたい。ごはんをあまり残さないようにしたい」「お肉がなかったら自分たちは生きていけないし、いのちに感謝して「いただきます」「ごちそうさま」を言いたい」と、書いてくる子どももいました。

食事をいただくときには、本日の授業で学んだことを生かし、気持ちを込めて「いただきます」「ごちそうさまでした」が言えるようになってほしいと思います。

